

会 議 議 事 録

会 議 名	令和3年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	2021 年 6 月 17 日（木） 13:00～17:00		
会 場	東京福祉専門学校 第3校舎 2-4 教室		
参 加 者	委員等	7 人 (オンライン で参加)	卒業生代表：西田 憲司様（特養きく） 高等学校代表：高部 英彦様（正則学園高等学校） 地域代表：赤羽根 智英子様（くすのき さざなみ会） 業界関係者：池田めぐみ様（特養なぎさ和楽苑） ：若松 弘樹様（児童養護施設聖友学園） ：皆川 隆太様（就労移行支援事業所 natura） ：中里 武史様（東京都作業療法士会）
	事務局	13 人	東京福祉専門学校 学校長 小林 和弘 運営本部長 小川 昭久 事務局長 山崎 彰 教務部長 木村早希 学部長 高橋利明（ソーシャルワーク学部） 学部長 高玉直樹（こども保育学部） 学部長 高野大輔（リハビリテーション学部） 学部長 小林紀和子（コミュニケーション学部） 福祉事業センター長 福原 康久 広報センター長 佐藤 祐子 キャリアセンター長 鈴木 恭雄 リカレントセンター長 堀 延之 学生サービスセンター長・コンプライアンスセンター長 西田 茂男（書記）
会 議 録	1. 学校長挨拶（小林） 本日はご多用の中、2021 年度学校関係者評価委員会にご参加いただきありがとうございます。昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症対策の影響により、ご来校いただいた委員の方とオンラインでご参加いただく方と併用した形で本委員会を開催しております。新型コロナウイルス感染症対策の影響を受け、昨年度はオンライン、分散登校、感染予防対策など思考錯誤しながらの学校運営でした。まだ日常を取り戻すには至っていません。本来であれば委員の皆様には、学生の授業の様子などご覧いただきたいところですが、ご覧いただくことができず大変申し訳ないと思っています。 そんな中でしたが、昨年の取り組みについて、自己点検、自己評価を行っています。本日は、各お立場やそれぞれの分野代表として、本校の各取り組み等について「第三者の目」見ていただき評価とご意見をいただければと思います。ここは甘い、足りないなど、忌憚のないご意見をいただき、今後の学校運営や教育活動の向上に活かして		

いきたい所存です。今年もコロナ中ありがとうございます。

2. 2021 年度事業報告（小川）

東京福祉専門学校では「学校おもしろ化計画と称して環境・社会の変化、学生さんの変化に対応しておもしろ化計画で学校を変える。その中でも、授業を変える。IC 活用した新しい授業形態への取り組み、先生が板書し、学生がノート在必死にうつしていく授業から学生が授業に参加する能動的授業へ変更を 1 年間かけて追ってきた。

退学者の実績ですが複数学科ありますが、特に介護福祉士科の退学者が昨年度多くなっています。これは介護福祉士科は留学生が多く、留学生の指導に苦戦している。望みを持って入学しているが、望みと教育のギャップや昨年度は新型コロナの影響でそもそも入国できないケース、規定以上に就労（オーバーワーク）によって退学など、いろいろな理由はあるが、留学生への対応については今後の課題である。

次に就職ですがこれは新型コロナの影響で大変厳しい状況になっている。医療や福祉系の学校についてはまだ影響は小さく済んでいるが、グループ校では他の分野の学校、ウェディング、製菓・調理などの飲食関係の学校は求人数が激減している状況であった。

本校は卒業時、就職未内定者がいたが卒業後の対応で今は全員が就職内定している。

次に国家試験の結果ですが、全体的に全国平均を下回る学科が増えてしまった。授業形態がオンライン授業になり、学生の国家試験に対する勉強についてより詳細な分析と健闘が必要である。

昨年度入学者の状況は学園では約 1 割減少。東京福祉も当初の入学者目標人数は達成できていない。

3. 自己点検項目説明（配布資料参照）

●教育理念・目的・育成人材像（小川）

理念・目的・育成人材像：評価 3

理念については滋慶学園が設立以来、学校の運営において大切にしてきたもので「3」を付けている。もっと全教職員が書いてあるとおり。理念、大切にしていること。3 を付けている。もっと全教職員が同じ方向を向いて仕事はできていると思っている。オンライン、新型コロナウイルス、コロナ禍での対応は急ピッチで整えた。

●学校運営（小川）

事業計画:3

評価は3を付けている。先ほどお話した事業報告と重なる部分も多く、お読みいただき評価をお願いしたい。

人事・給与制度：3

学校運営においても、コロナ禍の影響から ICT の活用が進んだ。

意思決定システム：3

情報システム：3

●教育活動（小川）

目標の設定：3

教育方法：3

成績評価：3

資格免許取得：3

教員・教員組織：2

昨年度のコロナ環境の中で、授業の実施について大変苦勞している学校が非常に多かった。本校についてコロナとは関係なく、2019 年度より ICT 教育について積極的に取り組んでいた。オンライン授業や動画録画授業にも昨年の 4 月後半から導入し始めて、すべオンライン授業は 5 月後半から実施、早く整った。4 月後半から録画動画スタートできた。ただ例年に実施していたオリエンテーションや導入教育というクラスづくり、協働、人間関係作りなど、協調性を育むプログラムは実施ができなかった。キャリア教育領域の内容は登校がスタートしてからできる限り授業内において実施したが、学校行事もすべて中止の状況であった。昨年課題として国試合格率が大きい。コロナで授業がオンラインとなり厳しい結果となってしまったので今年は工夫していきたい。

●学修成果（鈴木）

就職率：3

就職の内定状況は昨年度就職希望している卒業生で 5 名未内定で卒業。5 月に全員が内定した。（329 名就職希望 卒業時 324 名が内定）

求人は 2500 件以上ありコロナの影響は大きくなかった。ただ、コロナは現場での実習に影響があり、予定通りに現場での実習が行えず、日程変更や学内での振替実習など大変イレギュラーな状況になった。この影響があり、例年に比べ将来像をイメージできずに就職活動をスタートもしくは遅れてスタートする学生も多い状況になってしまった。なかなかモチベーションも上がらず、5 名が未内定であった。

学習した内容を活かしての専門職就職 99%で今後、卒業生についても学校として、よりサポート行っていきたいと思っている。卒業生向けの講習会や勉強会をオンラインなどを活用しながら実施していきたい。

●学生支援（木村）

就職等進路：3

中途退学 昨年 3→2 へ

コロナ禍の中、中途退学者防止を中心に教育を実践した。例年、心身の問題、学力などが退学要因になるが近年は精神的な問題が要因での退学が増加していた。昨年度は日本人学生は対前年より退学者が減少したが留学生が増加してしまった。日本語能力の問題、ビザ更新ができない学生、オーバーワークなどの理由が多く、学科スタッフだけではなく学校全体で対応する体制を整えた。

現状で退学を防げないのが入学前のオーバーワーク（週 28 時間までを守っていないでビザの更新ができずに退学）のパターンがある。入学後については指導を強化してアルバイト先に交渉や指導のお願いなども行った。

課題として防げる退学を防ぐことが重要。学生相談室、学内カウンセラーと連携を強化する。またズームなどオンライン相談もカウンセリングのハードルを下げるので活用していきたい。

学生生活：2→3へ

コロナ禍という環境で各学科で工夫した。

(こども保育科)

近隣のお子様に実際に来てもらい学生が保育の実践をすることも教室は本校の特徴であるが、入学したらコロナでできない現状があり、それが理由でモチベーションが低下してしまい退学というケースがあった。今年は感染予防を徹底。教室を広くして、毎週こどもとの関わりを持ちながら教育を行っている。

(社会福祉科)

社会福祉士科ではチャレンジプログラムとして様々な現場の見学、ボランティアを体験して、法定で定められた実習の流れになってる。現場の空気、体験が重要と考えている。またコロナのため学外へ行けないときは、来校してもらったり、オンラインを活用して実施した。

卒業生・社会人：3

卒業生の就職支援は実施している。また行政と連携したプログラムも実践して、保育士キャリアアップ研修等を本校にて行っている。

●教育環境（木村）

施設・設備：3

防災・安全管理：3

昨年度はコロナ対策が中心となった。3密回避の環境、備品の設置、早期に対応した。また学生全体での防災訓練などはコロナの影響で実施できず、職員のみで実施した。

●学生の募集と受け入れ（佐藤）

学生の募集：3

入学者数についてはコロナの影響が大きく入学者目標は達成できなかった。

留学生と遠方からの入学者数の減少が著しい。コロナ対応としてオンライン型の体験入学、学校説明会等を実施して、この部分は大きく成果を上げ、新しい形の学校広報活動が構築された。

●財務（西田）

すべての項目で3

滋慶学園のグループ企業と協力、連携して予算計画を立て、学校運営を実施。ホームページにて財務情報を公開している。

●法令等の遵守（西田）

すべての項目で3.

コンプライアンスについては各養成施設管轄、東京都、江戸川区などに指導、質問をしながら、定められている申請・届けを行っている。

●社会貢献・地域貢献（鈴木）

地域貢献・地域貢献：3

ボランティア活動：3

コロナの影響がありなごみの家などもあまり活動が行えず、イレギュラーな年度になった。本来、本校の大きな特徴的な要素であるので、本年度は積極的に取り組んでいきたい。

4. 委員からの質問、ご意見

高部様

本校では 27 名が専門学校へ進学、4 名が滋慶学園に入学。専門学校は実際に見て、体験して選ぶ生徒が多く、コロナ影響で学校運営は苦勞なさったのではないかな？

生徒の変化に応じて、長期計画を立てて、学校運営しているのは素晴らしい。私が勉強になる。

池田様

このような環境での学校運営、配慮大変かと思います。実習生、就職について詳細をお聞きしたい。

→学科で差異はあるが、現場での実習はやはりコロナの影響で難しいのが現状ある。代替え授業として、学内で実習を行ったり、現場の方に来校していただいたりして、工夫した。求人数は極端な現象はなかったが、現場での体験が例年より遅れたり、少ない関係から、就職へのモチベーションが遅れたり、弱かったりという傾向はあった。このような状況に於いては適応力が弱い学生へのサポートが重要と考えている。

若松様

留学生の方が気になりました。支援方法の確立が大切だと思います。

中里様

コロナの中で学びを継続して実施している。自分自身が勉強したいです。オンラインなどの学習成果はどうなのでしょうかな。

→オンラインはやはり学生同士での学び合いは今のところ難しい。ただオンラインでの工夫は取り組んでいて、病院のスタッフの方に、現場をリアルに撮影してもらいながら院内見学や海外と繋いでの授業も行っている。

赤羽根様

なごみの楽しみにしています。なごみの家でお会いする学生さんが明るく関わってくれて楽しい。地域とのふれあいは学生さんも勉強になるし、地域の方も楽しみにしている。

以上